神奈川災害ボランティアネットワークNEWS

発行：神奈川災害ボランティアネットワーク
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-13 新横浜ステーションビル9階
TEL045-473-1031 FAX045-473－9272 URL http://www.newksv.arts-k.com/

熊本地震に学ぶ　～受援力の大切さを実感～

2016年４月14日の熊本地震の発災から半年となる10月13日。神奈川災害ボランティアネットワークは県内自治体やボランティアによる被災地支援の報告会をかながわ県民センターで開催しました。

地震直後の被災者への支援で大きな役割を担うのが、県外から応援に駆けつける全国の自治体職員やNPOの人たち。その力をどう生かしきるのか。熊本地震で改めて浮き彫りとなったのが、予め外からの支援を受け入れる態勢を整えておく、いわゆる「受援力」でした。混乱の中で起きていた極端な人手の偏り。職員を派遣されても、その力を生かす準備は整っていなかったと報告されています。東日本大震災の経験からその必要性が指摘されていましたが、教訓は生かされていませんでした。

報告会では、横浜市、川崎市、相模原市等から派遣され被災地復旧を支えた行政担当者より、避難所の運営や避難所間のやり取りの問題、避難生活が長期化する中で起こる問題、避難所の自立や運営の担い手などを報告されました。

いつ発災するかもしれない首都圏直下型地震等を見据え、地震を免れない国で暮らしているからこそ「いつ応援される側になるか、その時に向けて効率的に支援を受け入れる『受援力』をどう高めるか」、その大切さが実感されました。

なお、２月７日に修正された県の地域防災計画（地震災害対策計画）では東日本大震災や熊本地震を受けた法改正や減災の新たな視点を取り入れ、県外からの応援を受け入れる「受援力」の強化やきめ細かい避難者支援、防災教育の充実などが打ち出されています。

横浜ＹＭＣＡ　シンポジウム「熊本地震から学ぶ」

2016年11月17日横浜中央ＹＭＣＡにて

横浜ＹＭＣＡでは、熊本地震における避難所運営や市民団体との連携による被災地支援を通じて多くの経験をしてきましたが、この経験を地元神奈川で広く共有しようと11月17日にシンポジウムを開催し100名の参加がありました。シンポジウムでは、200人を超える諸外国人を含む1000人余を避難者として受け入れた熊本大学で避難所の運営責任者として活動された熊本大学特任助教安部美和氏、行政の立場から前熊本県総務部長木村敬氏、益城総合体育館や御船町スポーツセンターの指定管理者として避難所運営に取組んだ日本ＹＭＣＡ同盟山根一毅氏の三者に、それぞれの立場から熊本地震避難者対応の課題と教訓について語っていただきました。

「全ての情報は2か国語で」
安部美和氏

外部のリソースを繋げる
体制が重要と語る登壇者

熊本県庁の対応について語る
木村 敬氏

フロアーからも多く質問
が出された

市区町村社会福祉協議会と災害ボランティアによる災害図上訓練2016　湘南地区

１月18日、県社協湘南ブロック（７市4町）の災害図上訓練が三浦市総合福祉センター13時～16時で開かれた。災害時に備え「普段から見える関係を築いて行こう。」という神奈川県市区町村社協と災害ボランティアによる災害図上訓練で３年目の今年は12月7日の県央ブロック厚木会場に続き２回目である。参加者は、社協職員とボランティアスタッフ33名とＫＳＶＮスタッフ８名。

吉井博明教授

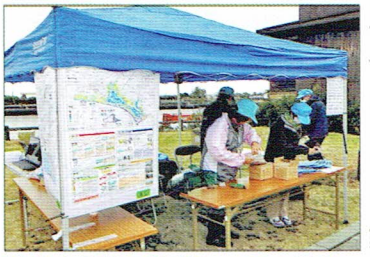
図上訓練は吉井博明・東京経済大学名誉教授の地震による被害とＶＣが機能するための要件」に始まって三浦半島活断層群の被害想定から①運行可能な道路など災害情報を地図上に書き込み、②災害ボランティアセンターの設置運営に必要な準備の整理 ③被害の大きい地域への応援判断、各市町村による連携の検討、④本部連絡会議訓練と今後に向けての情報共有でそれぞれの島（テーブル）毎にグループワーク、発表を行った。　（ＫＴ）

白地図に書き込む参加者

絆を強めるファミリーウォーク（帰宅困難者対応訓練）

東日本大震災では公共交通機関がストップし、多数の帰宅困難者が発生しました。その時の体験より湘南地域連合、藤沢災害ボランティアネット、町内会・自治会、市民団体等が実行委員会を作り、いつ・どこで遭遇するか分からない大震災に備え、ファミリーウォークを通じて、いざという時にどうするか、家族で話し合い、絆を強めようと毎年開催されています。10月30日（日）に藤沢市民会館を９時にスタート、国道467号線を南下し、国道134号線に出て江の島入り口を経て、観光協会までのショートコース（４km）、さらに西へ湘南なぎさパークから、右折し鵠沼市民センターまで（６km）のコースを参加者197名の家族連れが和気藹藹と歩きました。

鈴木藤沢市長を迎えての出発式


観光会館前の情報システム拠点

途中、参加者は携帯やスマホのＧＰＳ機能を活用し、自分たちの位置や状況を観光会館前のモニターに映し出す、災害情報員・市民レポーターの訓練を兼ねた情報システムの実証実験も行われました。

藤沢災害ボランティアネットでは災害情報コーディネーターの養成に力を入れて参ります。　（ＴＯ）

台風10号　豪雨氾濫の岩泉町、久慈市を支援して…

台風10号の豪雨で氾濫した岩手県岩泉町、久慈市に９月25日から夜行４泊５日、仲間４人でボランティアに行って来ました。岩泉町の小本川は川面から道路まで２～３ｍの高さがありますが濁流はそれを超え道路の両側に立ち並ぶ集落を襲い家屋の殆どは２階まで浸水していました。久慈市の山根地区では濁流で舗装道路のコンクリートが削り取られ側溝のＵ字溝がむき出しになり、家屋は突き抜け、家屋の土台部分が剥がれていました。濁流に流され放置されたままの車、濁流に半分持っていかれた家屋が倒壊しないようパイプで補強された家もありました。まるで山津波そのものです。

私達、ボランティアは床下の泥出しをやりました。どろどろの倉庫の中の物を廃棄場へ運び出す作業を手伝いました。その後、神奈川ボラバスチームの岩手県岩泉町復旧支援便にスタッフ添乗でも参加しました。総勢44人の神奈川隊が現地で７～８班に分かれて個人宅や納屋の泥出し、家財の運び出し、後片付け、清掃、庭の泥出し等の作業を行いました。

神奈川ネットは被災地支援を続けながら自分の地域の減災、防災活動、そして受援力を高めるため日々、頑張っています。　（ＫＴ）

東日本大震災復興支援まつり2016を開催

「風化させることなく、励まし合いながら、復興していこう そして、未来を切り拓いていこう」

東日本大震災から５年が経過しても、被災地復興は遅々として進んでいません。しかし、年数が経つにつれ、被災地の情報は少なくなり、人々の記憶から少しずつ薄れはじめているように思えます。岩手、宮城、福島の方たちの「忘れないでほしい」という思い、復興に向けて前進する人々の思いに寄り添いながら、復興・支援を継続して応援し、3.11を風化させないためにも、今年も山下公園で「復興支援まつり」を開催しました。

東北の復興に向けたメッセージを横浜の地から発信し、交流し、新しいつながりや絆を深めました。

◇主催：東日本大震災・復興支援まつり実行委員会
◇日時：2016年11月19日（土）10時30分～14時30分
◇会場：山下公園　おまつり広場
◇協　賛：181団体

◇出店（出展）団体：92団体、103ブース
◇ステージ・ひろばイベント

・ステージイベントは、制服向上委員会によるコンサート、Ca37による親子らくがきアート体験、小乗浜実業団による獅子舞、被災地から参加団体のメッセージ。
・ひろばイベントはルンタ・手ぬぐいによるカンパ。自転車発電コーナー、手回し発電Nゲージ。
＊ステージイベントに使用する電気は、藤野電力さんによる太陽光発電の電源使用。

◇来場者数：10,000人　　（ＭＩ）

横浜ＹＭＣＡ　東北訪問ツアー　2016年11月19日～20日

東日本大震災から５年８カ月後の「今」現地を訪れ生の声を聞く東北訪問ツアーを、JICA横浜ブラジル人研修員２名を含む19名で実施しました。南三陸町さんさん商店街や防災センターの訪問、石巻市大川小学校、名取市閖上保育所のお話や語り部の案内によるお話を伺いました。横浜ＹＭＣＡでは「3.11を忘れない」を合言葉に東日本大震災後の復興支援と地域の防減災に取り組んでまいります。

（ＡＴ）

南三陸町防災センター跡

閖上地区　遺族でもある語り部の案内により、復興が遅れている現地を訪ねました。

遺族でもある保護者の方に大川小学校内を案内していただきました。

大川小学校の止まったままの時計

神奈川県内避難者ふれあい交流会を開催

かながわ勤労者ボランティアネットワーク

10月22日（土）午後、クルージングとディナーの交流会を実施しました。

交流会には、93家族232名の応募の中から抽選で当選された42家族93名の方々が参加し、薄暮のサンセットクルーズとワークピア横浜におけるディナーで交流を深め合いました。

柏木教一実行委員長からは、「発災して５年７か月が経ち避難生活が長期化しているなかで、生活環境やそれぞれの思いに違いがあるとは思う。これからも皆さんのニーズや何がサポートになるのか等を検討しながら取り組んできたい」と激励がありました。

（ＹＭ）

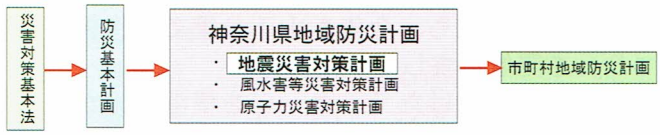
◆「神奈川県地域防災計画(地震対策計画)修正案」に関するパブリックコメントについて

神奈川県は平成28年10月から11月にかけて「神奈川県地域防災計画(地震災害対策計画)修正案」関するパブリックコメントを行いました。神奈川県は東日本大震災の経験や教訓を踏まえ、平成25年度から26年度にかけて神奈川県地震想定調査を行い、その調査に基づき神奈川県地震防災戦略を平成28年3月に改訂しています。

今回はそれらの取組を反映させ、国の法令改正や防災基本計画の修正、近年の災害の教訓に基づき修正案を策定したとのことです。そして様々な項目について計画を追加しています。例えば地震防災戦略の減災目標を達成するための重点施策の数値目標を追加したり、県内小中学校の教員を対象とした防災に関する専門的知識や技能を習得する専門研修の実施を追加したり、県民の取組として平常時から指定緊急避難所、避難経路や家族との連絡方法等をあらかじめ確認し自助の備えにつとめることなどを追加しています。

しかし現実はそのような取組を系統的、継続的かつ主体的に取り組む県内各地域での指導的な市民レベルの人材の育成を県のシステムとして作り上げていく具体的な提案がないため誰がそのようなことを実際に責任をもって展開していくのかという疑問が残ります。

その点についての意見を提出しています。　（ＴＴ）



◆地域ネットの仲間たち

逗子災害ボランティアンティアネットワーク

代表者：真下　政次
連絡先：〒249-4000　逗子市沼間5-8-8
電話：携帯　090-983907001　固定046-873-8536
Eメール：yamanaka_yoshio@yahoo.co.jp

設立：　2003年（平成15年）4月
主な活動場所：逗子市民交流センター
URL：twitter https://twitter.com/saiborazushi
facebook https://www.facebook.com/saibora.zushi

中学校防災教育支援（ジャッキアップ）

一般社団法人　やまと災害ボランティアネットワーク

代表者：市原　信行
連絡先：〒242-0021　神奈川県大和市中央６-１-１２-Ｂ-１０１
電話：046-261-1956（代表・FAX兼用）　携帯 090-9349-5410
Eメール:　ysv0401@yahoo.co.jp(代表)

設立：1998年4月
主な活動場所：大和市内・神奈川県内
URL：http://ysvn.web.fc2.com/

海老名災害ボランティアネットワーク

代表者：橋本賢司
連絡先：〒243-0417　神奈川県海老名市本郷４５７４
電話：携帯 090-3229-8069　固定 046-238-3592
Eメール：edvn-hasiken@u-pa.jp

設立：2001年12月
主たる活動場所：海老名市総合福祉会館
URL：http://ebina-saibora.net

手話サークル「さつき会」に出前講座　トイレ作り、三角テント作りの講習

相模原災害ボランティアネットワーク

代表者：中村吉和
連絡先：〒252-0239　相模原市中央区中央4-14-16　大石　努
電話：携帯 080-5659-1716　固定 042-758-1716
Eメール：ahm4102@S7.dion.ne.jp

設立：1999年9月
主たる活動場所：相模原市民活動サポートセンター
URL：http://ssvn.jimdo.com/

あやせ災害ボランティアネットワーク

代表者：伊藤正貴
連絡先：〒252-1103　綾瀬市深谷3838　綾瀬市立中央公民館内
電話：携帯 090-3209-6675　固定 0467-70-1232
Eメール：masataka@mx4.mesh.ne.jp

設立：2003年11月
主たる活動場所：綾瀬市民活動センター、綾瀬市内

今後の予定

３月７日（火）	理事会
３月28日（火）	拡大運営委員会
４月11日（火）	理事会
５月16日（火）	理事会
６月６日（火）	2017年度総会
６月17日（土）	初級養成講座
６月24日（土）	初級養成講座
10月14日（土）	中級養成講座
10月21日（土）	中級養成講座
10月28日（土）	中級養成講座

編集後記

災害列島日本、どこの被災地に行っても「生まれてから（80年も）ここに住んで来たが　こんな豪雨（災害）は始めてだ」と良く耳にします。

繰り返す大地震、異常気象による集中豪雨、台風による河川の氾濫、竜巻や突風の被害が増えています。災害が日常茶飯事になってしまった昨今、自然の猛威には太刀打ち出来ませんが、日頃から防災、減災に取り組んでいるかどうか、備えをしておくかどうかで結果は大きく違ってきます。

ＫＳＶＮは平時から授援力と支援力を高め、地域ネット間の目に見える関係作りで連携体制を構築しています。災害、防災の主役は市民一人ひとりが災害から自分や家族、地域をどう守るか、ＫＳＶＮは羅針盤でありたいと本ニュースをお届けします。　（ＫＴ）

編集委員：水島、丸山、高村、大田、石田、田口